

## リニア岐阜県駅と東濃地域の状況

当課では、リニア中央新幹線沿線地域の信用金庫との情報交流を行っておりますが、このほど東濃信用金庫（本店：岐阜県多治見市）へ第2回目の訪問を行い、情報交換をいたしましたので概略を紹介します。

### 1. 岐阜県内の動向

岐阜県内で工事が始まっているのは日吉トンネル（瑞浪市）のみ。リニア岐阜県駅の周辺整備は、「個々の地権者には具体的な話はまだ始まっていない」（東濃信金）という状況です。

中津川市の進捗状況は、本年4月にリニア駅周辺土地区画整理事業が都市計画決定され、同じく7月5日から7月18日の間に土地区画整理事業計画案の縦覧を実施、また同計画案に対するパブリックコメントを同8月1日まで募集したところ



東濃信金本店（多治見市）

です。市が示す事業スケジュールでは、今年度中に区画整理の事業認可を受ける。平成30年度から32年度にかけて、測量、詳細設計と、地権者への土地利用意向調査（個別面談）、仮換地原案作成、個人説明会、仮換地指定までを予定。同33年度より工事を開始し、同39年のリニア開業を迎えることとしています。リニア岐阜県駅予定地周辺に居住する方々にとっての駅周辺整備は、この土地区画整理事業への対応をどうするかということで個々に話が及ぶことになります。

事業案計画図によると、区画整理施行区域の計画街路は濃飛横断自動車道にインターチェンジで繋がり、これが坂本地区にできるジャンクションで中央自動車道と結節します。濃飛自動車道でルートが確定しているのは「中津川工区」の中央自動車道と木曾川までの間ですが、今後飛騨方面への延伸に向けルートの決定が要望されています。

かねてより課題とされていたリニア岐阜県駅と飛騨地方や中濃地域とのルート整備に向けた取り組みが駅周辺整備と並行して徐々に形になってきています。

都市計画決定が成った岐阜県駅の区画整理事業案



(中津川市HPより)

## 2. 東濃地域の観光振興への取り組み

リニア開通を見据えた取り組みの中で、観光については「どうしたらリニア岐阜県駅に乗客が降りてくれるか、乗客がどこへ行くか。東濃地域には年間入込客数100万人の下呂温泉や同700万人の土岐アウトレットなどがあり、これと地場産業の陶器などと結んだ観光ルートなどできているが、リニア時代にはまだまだ力不足。飛騨方面、木曽方面との連携による観光ルートの開拓をはじめ課題は多い」(東濃信金)とのことです。

その中で本年7月、中部経済連合会(以下中経連)と東濃6商工会議所(多治見、中津川、土岐、瑞浪、恵那、可児)により観光振興のための「ツーリズム東美濃協議会」(以下協議会)が発足しました。昨年10月中経連と6商工会議所が地域活性化のための取り組みに合意。東濃信金の地域活性化研究所から中経連と各商工会議所の専務理事で構成する「ワーキングメンバー」に加わり、新組織の立ち上げに協力しました。

今後もワーキングメンバーとして運営に携わるとともに、地域の観光資源の棚卸しや他地域との連携などに取り組んでいくとしています。

### 「ツーリズム東美濃協議会」発足を伝える新聞記事



## 3. 岐阜県駅予定地の状況

中津川市のリニア岐阜県駅予定地を訪問しました。

JR美乃坂本駅からリニア駅予定地の辺りは、工事こそ行われていませんでしたが測量業者による測量作業が盛んに行われていました。これは前述の土地区画整理のための測量作業と思われます。

リニア本線や駅部に当たる箇所の道路には杭(鉾)が多数打ち込まれていました。

リニア岐阜県駅予定地(中津川市千旦林地区)



リニア対策課で現地を撮影し、発表されている予想図に基づき本線・駅部のおおよその位置と高さを表示

(飯田信用金庫 地域サポート部 リニア対策課 加藤 修平)